

ゴジラ (1984)

GODZILLA 1985

メディア 映画
ジャンル 特撮 ファミリー
製作国 日本
色彩 Color
時間 103分
初公開日 1984/12/15

【解説】

大黒島沖で遭難した漁船の生存者・奥村は荒れ狂う嵐の中で巨大な怪物の姿を目撃していた。奥村を救助した東都日報の牧は生物学者・林田の助言を求め、林田は30年前に帝都を襲撃し東京湾で葬られたゴジラが目覚めたと推測。はたしてゴジラは復活していた。ソ連原潜を沈め、静岡井浜原発に現れると放射能を吸収し海へと消えたゴジラ。だがそれは破滅へのプロローグでしかなかった。ついに東京湾に姿を見せたゴジラは自衛隊の防衛線を塵と化し、その進路を摩天楼並び立つ新宿副都心へと定めたのだ。林田たちは井浜での行動と体内透視写真からゴジラの帰巣本能を利用して三原山火口に誘導する作戦を立てる。一方、自衛隊の誇る最新鋭兵器スーパーXの放ったカドミウム弾によってゴジラはその動きを止めていた。だが誤発射されたソ連の核ミサイルを首都上空で迎撃した結果、放たれた核エネルギーによってゴジラは甦った。その時、三原山に設置した誘導装置が始動。超音波に導かれるまま、伝説の怪獣はその巨体を三原山の火口に沈めるのだった……。

『メカゴジラの逆襲』から9年、ついにゴジラが復活した。その間にも幾度か話はあったものの、初期設定に立ち戻り人類の脅威としてのゴジラを、子供向け作品ではなく一般映画として再びスクリーンで見るとはファンならずとも感慨深いものである。設定は第1作の30年後という形を取り、リメイクではなく新たなシリーズの幕開きといった感のものになっている。主要な舞台となる新宿の超高層ビル群に合わせて体長は50mから80mになり、表情も凶悪な生物感溢れるデザインとなった。また微妙な表情なども出せるように、全長10mというコンピュータ制御によるロボット“サイボット・ゴジラ”も製作され話題を呼んだ。怪獣映画と呼ぶよりは『日本沈没』や『地震列島』といったディザスター・スペクタクルの雰囲気に近い作品となったのも新鮮であった。

【登場怪獣】 ゴジラ

【クレジット】

監督 橋本幸治
製作 田中友幸
原案 田中友幸
脚本 永原秀一
CG 土屋裕
撮影 原一民
特殊効果 渡辺忠昭
久米攻
視覚効果 宮西武史
美術 桜木晶
造型 安丸信行
編集 黒岩義民
音楽 小六禮次郎

特技監督 中野昭慶
特技・撮影 山本武
大根田俊光
特技・美術 井上泰幸
特技・操演 松本光司
宮川光男
特技・合成 真野田嘉一
出演 田中健 牧吾郎（東都日報記者）
沢口靖子 奥村尚子
宅麻伸 奥村宏
夏木陽介 林田信（生物学者）
小林桂樹 三田村清輝（総理大臣）
内藤武敏 武上弘隆（官房長官）
鈴木瑞穂 江守誠一（外務大臣）
村井国夫 辺見昇（内閣調査室長）
小沢栄太郎 神崎（大蔵大臣）
織本順吉 毛利（防衛庁長官）
御木本伸介 加倉井（統幕議長）
森幹太 大河内（国土庁長官）
金子信雄 磯村（自治大臣）
山本清 梶田（科学技術庁長官）
加藤武 笠岡（通産大臣）
田島義文 日高（環境庁長官）
武田鉄矢 ホームレス
橋本功 秋山（スーパーX隊長）
潮哲也
石坂浩二
江本孟紀
かまやつひろし